

## 令和5年度 金沢型学習スタイル実践推進事業 報告書

浅野町小学校	小学校教科推進校	算数科
--------	----------	-----

## 1 研究の重点と具体的な取組

(1) 重点1 問題解決への意欲と見通しをもつ手立て

- ・「知りたい」「やりたい」が生まれる素材や提示の工夫
- ・多様な考えが出る手立て

(既習をふり返る場面の設定・思考の足跡が残るノート)

(2) 重点2 個の考えをつなげ、集団で学び合う手立て

- ・「分かった」「できた」を実感できる手立て
- (思考させる問いかけ、問いプレートの活用、ICTの活用)

- ・全員が参加する場の工夫

(構造的な板書、巻き込む話し方、学習形態の工夫、意図的な指名)



## 2 取組の検証

「考える場面で、自分の考えをもち、自分の考えを伝えている」

- ・児童アンケート 肯定的評価 前期 82.5% 後期 83.7%

「児童が考える場面で自分の考えをもち、伝えられるように机間指導の手立てをとっている」

- ・教師アンケート 肯定的評価 前期 94% 後期 100%

## 3 成果と課題

(1) 成果

①重点1 問題解決への意欲と見通しをもつ手立て

- ・既習のふり返りからの導入により、全員の土台をそろえて本時の課題に向かえた。
- ・提示の仕方、前時との違い、日常生活場面からの課題で考える必要感が生まれた。

②重点2 個の考えをつなげ、集団で学び合う手立て

- ・机間指導で児童の思考の把握に努めたことにより、児童の発言に対して、曖昧な部分やねらいに迫る部分での問い返しの意識が高まった。
- ・「同じところは？」という比較させる問いプレートの活用により、思考を焦点化させることができた。
- ・展開部分での ICT 活用が進み、自分の考えを表出するため、自分の考えを伝わりやすくするため、交流する相手を決めるためという目的での活用が効果的であることが見えてきた。

(2) 課題

①重点1 問題解決への意欲と見通しをもつ手立て

- ・導入に時間を要し、展開部分で多様な意見を取り上げる時間がなくなった。
- ・ICT 活用でノートに残したいものと画面操作での思考とのバランスが難しかった。

②重点2 個の考えをつなげ、集団で学び合う手立て

- ・問いプレートの精選や発達段階による言葉の見直しなどに必要性があると分かった。
- ・自力解決のための手立てが個に応じたものになっておらず、自分で解決へむけて動き出すための工夫や方法の選択など個別最適な学びへむけた手立てが不十分である。